

8

できた生ごみ堆肥を 上手に、効果的に使おう

● 土に混ぜて、発酵・熟成を進める

生ごみ利用では、発酵途中で土の力を借りてじゅうぶんに発酵・熟成させてから安全に使う「土中発酵」も有効です。12・13頁で紹介した阿部さんは、台所で保存した「ボカシ和え」をコンポスト化容器で堆肥化するのが中心ですが、直接プランター用土に混ぜて発酵を進める方法も行っています。小粒の赤玉土3に、生ごみボカシ和え1の割合で混ぜ、表面の生ごみを隠すように土をかけておきます。1カ月ほどで、卵の殻だけ残った状態となり、苗を植えられるようになります。

前項の丸町さんたちは、堆肥施用で無化学肥料・無農薬のダイコンを栽培し、会員に試食用に届け、



「生ごみボカシ和え」を用土に混ぜて1カ月発酵・熟成

堆肥育ちのおいしさとリサイクルのよさを味わってもらっています。堆肥は3.3m²あたりに3kgほどをうね土全体に混和し、1週間ほど置いて土中で発酵が安定してからタネまきして育てています。

● 堆肥マルチは完熟堆肥で効果が出る

堆肥を土壌表面に施す堆肥マルチは、土の保水性・通気性を高めるとともに、根をマルチ部分から下層へと伸ばして活力の高い根群をつくるなど、収量・品質を高める効果があります。ただし、土壌混和に



生ごみ堆肥でダイコンの無化学肥料・無農薬栽培。堆肥を土に混和し、1週間なじませてからタネまき(調布・食の安全と生ごみリサイクルの会)

